

心に残る文化財子ども塾 活動の概要と様子 ～ 松江市立忌部小学校 ～

1. 概要

6月13日(月)、松江市立忌部小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。はじめに、これまでに授業で習った縄文時代・弥生時代のおさらいとこれから学ぶ古墳時代について、出土した土器を見ながら県埋蔵文化財調査センターの職員が説明しました。次に、忌部町から玉湯町にかけて古代の玉作遺跡がたくさんあり、この周辺が全国有数の玉生産地だったこと、さらに古代の玉の種類、使い方、作り方、原料について、出土品を見ながら詳しく学びました。座学の最後に、「忌部」の地名が玉作りに関係があることを述べました。

その後、「勾玉づくり」体験を行いました。体験の最初に「できるだけ丸みをつけること、根気強くいねいに作業することによって、本物の勾玉に近く作れる」と説明したところ、時間いっぱい頑張って作業していました。どの生徒さんも、かなり本物に近い作品にできあがりました。

2. 様子

1) 縄文時代から古墳時代の土器を見学
(本物の遺物に触れてみる)。



2) 古代の玉に触れる



3) 勾玉作り体験



3. 子ども塾を終えて

1) 児童の皆さんから…

- ・勾玉が上手にできて、うれしかった。
- ・歴史のことをもっと知りたい。
- ・勾玉を最初から作ってみたい。
- ・「忌部」の由来がよくわかった。
- ・「勾玉」の形は、なぜこのような形なの？
- ・自分が住んでいる町が、昔どんな町だったのか、どのように住んでいたのか、が知りたい。
- ・忌部に 40 以上の遺跡があること、全国有数の玉生産地だったことに驚いた。
- ・縄文時代から古墳時代の土器や玉など、実物が見学できてよかった。

2) 担任の先生から…

- ・地域に関係あるお話しでよかったです。
- ・実物を触れることができてよかった。
- ・歴史について関心が高まる授業でした。

3) 埋文センターから

勾玉作り体験は、皆さん頑張って実物に近い形にできあがり、驚きました。

忌部は、古代玉作と非常に関係がある地域です。このことを知ってもらいたいと思い、玉作りについてお話ししました。アンケートにあったとおり、古代の玉作と「忌部」の歴史に興味を持っていただき、内容を十分に理解してもらえたと思います。